カトリック高松教区報

２０１２年月１１月４日（第１５１号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB:://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

生活に
祈りを持つように
してください。
祈れば、
心が澄み、
心が澄めば、
神が見えてきます。

高松教区司祭　下田武雄師惜しまれ逝く

8月12日に逝去された下田武雄師のお別れ会が9月12日に桜町聖母幼稚園主催で行われた。それに続き高松教区として納骨ミサと納骨式を地下聖堂納骨堂で行った。また23日（日）に諏訪司教司式による追悼ミサがあり一連の追悼を終えた。

36年の間、桜町聖母幼稚園で幼児教育に携わられ、また桜町小教区司牧も務められた下田師の横顔を綴って頂いた。

司牧者、教育者としての下田神父様と共に

桜町教会　谷本千佳代

下田神父様は第2バチカン公会議の精神で司牧に専念してこられました。司教様の教えに忠実に従い、私たち信者がキリスト者としていかに人を愛し、聖霊の導きを信じて霊的に成長していけるかを探求し続けられた方だと思います。

「信徒が救いの喜びの中に居る時ほど、司祭としての心の慰めはないよ」と、いつも話しておられました。「それには神父自らが回心しなければならないのだよ」と、にこにこ笑って話された時、「神父様でも回心が必要なのですか、もう十分回心されておられますよ」と、笑ってお応えしながら、なんと謙虚で神様に忠実な方だろうと思いました。

桜町幼稚園がモンテッソリー教育の縦割り保育を採り入れる時、私は神父様からこの幼稚園へ呼ばれました。まだまだモンテッソリー教育を通して子どもの成長を模索していたある日「この幼稚園だけで満足してはいけません。充実したモンテッソリー園を見学に行きましょう。どのような環境づくりをすれば子どもが生き生きと生活できるのか、先生方もどのように子どもに接しているか観てきましょう」と、教職員を連れて九州や広島へと見学に出かけました。おかげで私たちも新しい目標に向かって新鮮な気持ちで取り組んでいくことが出来ました。「桜町幼稚園を日本一の幼稚園にしようね」と、いつも励まし続けて下さいました。「子どもの心は神様と直接つながっているから、神様と出会わせなければならない。その中で子どもは落ち着きや静けさを取り戻し、優しさや人を愛する心が育まれていくのだから」と、宗教教育の大切さを説き、特に聖堂での子どもの祈りを大切になさいました。

お別れ会で聖書朗読する谷本氏

いつも中庸な優しい愛で信徒や教職員を包み込んで下さった下田神父様は、そのご生涯を神様に捧げつくされ、忠実に神様のみ旨を生き抜かれた方だったと思います。マリア様への熱い信心をお持ちになり、「その従順と優しさを持つように」と、いつも語りかけて下さっておりました。下田神父様と過ごさせていただいた日々を思い返すと、私は救いの喜びをいただいた貴重な恵みの時であったと感謝しております。

今では神父様が大変尊敬しておられたマリア様の腕の中で、司祭職を全うされたご生涯を称賛され、真の安らぎを得ていらっしゃることでしょう。そして愛する信者たちや幼児教育者たちのためにお働き下さっていることと強く思っています。

下田神父様の永遠の安らぎを心よりお祈り申し上げております。

司教館地下納骨堂へ納める

信仰年に寄せて③

宇和島教会担当司祭　田中正史

いよいよ10月11日から特別年の「信仰年」が始まりました。この「信仰の門」という表現は使徒言行録14章27節から引用された言葉です。以下は教区報１５０号からの続きです。

④「信仰の門」はただ「信仰」によってのみ開かれます。このことはリストラにおけるパウロの奇跡によって示されています。パウロによって癒された足の不自由な男は生まれつき足が悪く、まだ一度も歩いたことがありませんでした。パウロは彼をじっと見つめて「癒されるのにふさわしい信仰があるのを認めて」（14・9）、「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と声をかけてその男を癒しました。使徒言行録を読むかぎりこれはパウロが回心してから初めて行った奇跡です。この奇跡は癒された男のためだけでなく、パウロ自身にとっても信仰の力によってどのようにその人の人生の中で「信仰の門」が開かれていくのかを目撃させられた出来事であったはずです。

信仰の門は信仰によってのみ開かれる

聖パウロから学ぶ

⑤神に対するまことの礼拝に導く「信仰の門」と私たちの間に立ちはだかる最大の障害は偶像崇拝です。いつの時代も人間は偽りの神をたて、それを礼拝することでますます人間の心が虚無化・疎外化される傾向をもっています。

この癒しの奇跡のあと、パウロの行ったことを見た人々は「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお降りになった」と言いながらパウロとバルナバを神格化し、彼らを「ヘルメス」、「ゼウス」と呼びながら二人にいけにえを捧げようとしました。しかし、このような人々の偶像崇拝を思いとどまらせたのはパウロ自身の信仰でした。パウロは彼らに「生ける神に立ち帰るように、福音を告げ知らせ」、「彼ら自身の心の喜び」の源がまさに福音が告げ知らせる神に他ならないことを示して、彼らが崇めていた神々の真の名前を明らかにすることで（14・17）、彼らに「信仰の門」をくぐらせることはできませんでしたが、その入り口にまで導くことで偶像崇拝をやめさせることができました（14・18）。

むすび

私たちは毎日祈りをするように毎日「信仰の門」をくぐり直さなければならないのかもしれません。しかもこの「信仰の門」には一人だけで入ることはできないようです。パウロが神の出来事としての「信仰の門」を経験するときには常に他者と共にくぐっていることに私たちは注目する必要があると思います。

たとえ私たちが孤独の中で「信仰の門」を一人でくぐっているように思えても、そこには私たちの人生のすべてにおいて同伴してくださっているキリストが確かにいてくださいます。

高松教区の最優先課題

青少年委員会のこれからの歩み

名称は、教区レベルでは青少年委員会、地区（ブロック）レベルでは青少年チームと呼ぶこととしました。

現在の協力宣教司牧態勢の中で、今まで活動していた人が何らかの理由で活動ができなくなった場合、それ以降の活動ができなくならないよう、今後は教区レベルでの動きも大切にしながら、地区・ブロック単位で動いていくことに重点を置くようにします。地区2つ、ブロック5つ、それぞれに担当聖職者が司教から任命されています。地区・ブロックの青少年チームメンバー（以後チームメンバー）選出や人数は担当聖職者に一任されており、そのチームメンバーに青年が入ることが望まれます。

各地区・ブロック担当聖職者は以下の通りです。

【東讃ブロック】
レナト・F　神父
シスター高松常子

【西讃ブロック】
土屋和彦神父
シスター加藤芳恵

【中予ブロック】
川上栄治神父
シスター佐々木裕子

【東予ブロック】
セコ・パウロ神父

【南予ブロック】
岩﨑武神父

【徳島地区】
林和則神父

【高知地区】
ブラザー八木信彦

年に4回、各県持ち回りで青少年委員会が開かれています。各地区・ブロックから最低一名が青少年委員会に参加するようにしています。委員会が始まる前に食事（昼食）を共にすることを大切にしています。食卓を皆で囲んだ後でミーティングに臨むことは、その内容にとても良い影響を及ぼすことがわかってきました。また、教区宣教司牧評議会や司祭評議会ともつながっていることも忘れないよう努めています。

地区とのつながりについては、地区評議会でチームメンバーを承認していただきました。そして場合によっては、地区評議会に出席して青少年に関することを審議していただくときもあると思います。

このような青少年委員会ですが、先日高松で各地区・ブロックから13名が集い、委員会が開かれました。その中で、委員会に参加いただいた諏訪司教様から、司教になって1年半、四国内のほとんどの教会を回って今考えていることを、私たちに以下のことを分かち合ってくださいました。

「地区・ブロックの中で子どもたちや青年たちのネットワーク作りをしてほしい。少子化の問題もあり、難しいことは分かっているが続けてほしい。それぞれの教会にいる在日外国人のことが気になる。この子どもたちが日本の中で元気に生きている訳ではない。いじめられている場合もある。勉強が嫌いな場合もある。日本で将来どうするか、ということが見えてこない。高校に進学しても続かないかもしれない。自分がどうしたらいいのか分からず、変な道に入っていくかもしれない。そういう彼らをケアをして行く上で、私たちは大きな責任を担っていくのではないだろうか。

ある地域ではほとんどの教会のメンバーはほとんどが外国人。日本の教会はインターナショナルな教会になっている。教会学校や青年会というときには日本人の集まりではなく、ダブル（二世）と言われる若者の成長に関わっていかなければならない。行事のプログラムを作成するときには、このダブルの子どものことも視野にいれなければならないだろう。」

ブラザー八木信彦

はばたき

「信仰の年」が始まりました。信仰の目で自分の人生をゆっくり振り返り、神様の存在、愛、働き、召命について黙想し、信仰の恵みを感謝しながら、また新たな一歩を踏み出す年でもあります。

人はそれぞれの場所でそれぞれの与えられたタレントを生かして花を咲かせることができる。それもまた神様からの贈り物だと思い、神への賛美と感謝の言葉（祈り）が生まれます。信仰年に当たり、信仰について考えてみたい。

私たちは、日曜日毎にミサの中で使徒信条を唱え信仰宣言をしていますが、これは弟子達の信仰の宣言であり、私たちの信仰の中心となっているものです。弟子達にこのような信仰が生まれたのは、長いプロセスの結果であり、イエス様を身近に見て、体験することによって理解し、深く信じるようになりました。弟子達も最初からイエス様が誰であるか、はっきりとは分からなかったのです。けれども共にいて見聞きし、十字架の死に至るまで、最後の最後まで導かれて、ご復活・聖霊降臨により、深く理解することができ、迷いのない信仰を抱くことができたのだと思います。

私たちは福音を通して伝えられた教えを信じ、イエス様へとつながっているのです。死に至るまでキリストに従っていた弟子達のように、私たちもキリストを信じて、地の塩・世の光として生きようではありませんか。

小教区紹介
新居浜教会（愛媛）

カトリック新居浜教会は、１９３７年（昭和12年）に住友の関係で来日していたドイツ人技師により創立されました。奇しくも新居浜市もこの年に市政をスタートさせています。新居浜教会と新居浜市とは同級生ということになります。住友の企業城下町として発展してきた新居浜市ですが、教会も１９５３年（昭和28年）に現在の新居浜教会が完成、１９６１年（昭和36年）には愛光幼稚園が誕生するなど市の発展と共に隆盛し、新居浜の街に教会の鐘の音を響かせてきました。

２０１２年９月22日（土）、カトリック新居浜教会にて創立75周年記念ミサが使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様の司式により執り行われました。神父様、シスターをはじめ各小教区からも参加をいただき、１００名以上の皆様による厳かな中にも喜びのあるミサとなりました。午後からは会場を愛光幼稚園講堂に移し、祝賀会が開かれました。75年間の歴史をスライドショーで振り返ったり、参加者全員で聖歌を歌うなどして、75周年を共に祝いました。

喜びのうちに創立75周年祝う

創立75周年は、新居浜教会にとって一つの区切りとなるものです。信徒の高齢化が進んでいますが、それぞれが力を出し合い新居浜教会らしい記念式になったのではないかと思います。なかでも中高生の活躍と新しいオルガニストが加わったことは、今後に向けての芽吹きを感じさせるものでした。これからも祈りと共に豊かな分かち合いのある教会共同体を目指し、１００周年のときにも教会の素敵な鐘の音を響かせていたいと思います。

新居浜教会　鈴木　強

誓願宣立60年人々と共におめでとうございます

Sr.エンシーナ

さわやかな秋晴れに恵まれた10月６日、聖母被昇天会のSrエンシーナの誓願宣立60周年記念ミサを行った。諏訪榮治郎司教様司式、カンバラ、ホルヘ両神父様の共同司式のもと、四国各地、また、関東、阪神地区から駆け付けた多くの方々と共に盛大に祝った。

Srエンシーナはスペインのレオン県出身で、１９５２年、フランスのフォルジュで初誓願、終生誓願も１９５５年に同所で宣立し、１９６４年クリスマスに来日。箕面で17年、丸亀で８年、西成で14年、現在高松で７年目を迎えている。

Srエンシーナはいつも多くの人と協力し、病める人、孤独な人、移住者、刑務所訪問などを通して福音を伝えている。これは周りの人々の協力の賜物です。

これからもSrエンシーナの人々への温かい思いと周りの方々の協力が豊かな実をもたらしますように。

Sr高松常子

ちょっと　ひといき

詩　唇に詩を持て

唇に詩を持て
宮沢賢治の言ったこの言葉が
ぼくはとっても好きです
その詩が・・・

ああ唇に詩を持て
そうすれば明日
胸に吹く哀しみなんて
もう、秋風に乾いた音ぐらいにしか
ぼくにもあなたにも聞こえなくなるよ

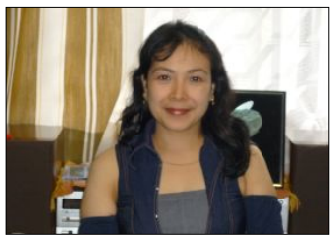
それば かりかその次の日には
でっかいすべてを照らす
イエズスと言う太陽が
ぼくの胸にも
あなたの胸にも
ゆっくりとのぼるよ

ひと　フィリピーナ共同体のまとめ役
池田教会　西岡マリンさん

四国のヘソといわれる三好市池田町にある池田教会、日曜日のミサに集まるのはフィリピン人とその子供達です。その１５人位を束ねているのが西岡マリンさんです。ロメオ神父様がフィリピンに帰省中は教会の鍵を預かり、花の世話等引き受けている。

主日の11時のミサの後は、お茶など飲み物、サンドイッチ、おにぎりは勿論、時々いろいろなフィリピン料理でミニ食事会を開いている。
9月には豚の頭の丸焼き、ゆでバナナなどで、マリア様の誕生日をお祝いした。

ミサは、日本語、英語、タガログ語で行われている。



フィリピン人にとって、思いっきり自由にお国言葉を話せたり、心がスーとする神様のお恵をいただいたりと、ミサ後はどの人も笑顔いっぱいである。

そして池田町に移り住んで５ヶ月余りの私達夫婦も暖かく迎えてくれる和気あいあいの雰囲気を醸し出してくれる人柄も嬉しい限りである。

池田教会　住吉　才子

積極的典礼参加を探る
全国典礼担当者会議（9/3～5）

今年も御聖体の宣教クララ修道会軽井沢修道院で全教区から典礼担当者が一堂に会し、信徒の積極的な典礼参加の形とその実現を探るための分かち合いのひと時を持った。今年のテーマは「典礼への参加」。

折しも「信仰年」を迎える私たちカトリック信者が目指すべき典礼の頂点であり信仰の源泉であるミサ典礼に積極的に参与するための環境を、如何に準備できるかについて、聖霊の助けのうちに分かち合うために日本の全教区から担当者が集った。

まず、信徒の典礼参加に関する事例報告（横浜・大阪・長崎教区）が行われ、それぞれの地域性に応じた典礼への取り組みが報告された。

また、19世紀から細々と始まっていた信徒のミサ参加探求の歴史とそれらの地道な積み重ねが第２バチカン公会議において典礼憲章として大きく実り、力となったことを学び、教会が聖霊の導きの中で常に育まれていることを改めて確信させられた。

予め各教区典礼委員会が提出していた典礼参加についての取り組みの報告を受けて、それぞれの教区が抱えている問題点と積極的取り組みへの活動についての共通認識を深め、これからの教区における典礼参加への気づきが与えられた。

最後に「司教儀典書」に基づく司教司式ミサ典礼の解説を受け、司教司式典礼が教区での典礼の規範であり模範となることが強調され、教区内での典礼が主の愛と威光を表す素晴らしい典礼となるよう努力することの大切さを再認識させられた。

以上の事柄については教区典礼委員会の活動によって教区の司祭、信徒に紹介され生かされるよう配慮されることになる。

谷口広海

第２バチカン公会議を語る國井健宏師

神学生便り
信仰と召命を深めたい

今年の夏休みは徳島教会に派遣されて過ごしました。徳島教会の皆さんの暖かい思いやりの中で貴重な経験をさせていただきました。

夏休み期間中は「徳島家族キャンプ」阿波踊りを含めた「歌って踊って平和を語ろう」、桜町司教座で開かれた「第１回召命のキャンプ」と「広島の平和巡礼」などに参加し、神学校編入後初めて迎える夏休みを皆さんの暖かい心と思いやりの中で意義深い経験をさせて頂き、心から感謝しております。

夏休みを終えて９月17日から 22日までの１週間は湯布院にあるサレジアンシスターズの修道院で１週間の黙想をした後、

サレジアンシスターズ湯布修道院

神学校では 10月３日に教皇大使の神学校訪問とミサがあり、10月11日には梅村司教様の司式で「信仰年開幕ミサ」が行われました。そして11月には福岡キャンパスでの召命の集いと東京キャンパスでのザベリオ祭も予定されており、信仰と召命を深める後期になると思います。

忙しい日程の中にも喜ばしい後期を過ごせますように、皆様に多くのお祈りを願い致します。

神学科2年　宋神学生

2012年　高松教区修道女連盟・総会・研修会
聖書理解へのアプローチと教区の優先課題・青少年司牧を学ぶ

9月29日（土）高松四国カトリック会館を会場として高松教区修道女連盟総会及び研修会が開催されました。折しも台風17号襲来が危ぶまれる中、遠路高知県からも来られ、教区内４修道会シスター46名の参加でした。

10時半開会で、研修会は西川康廣助祭による「聖書理解へのアプローチ」というテーマで、１時間半の講話。シスター全員を魅了する語り口と豊かな内容で、あっという間に過ぎてしまいました。

西川助祭の30年余りの伝道師と助祭を合わせた40年の豊かな経験と度重なる聖地巡礼により、イエスの生きられた土地に立ち、歩いて祈る中で得られた貴重な体験に基づくもので、聖書のそれぞれの場面を想いながら伺うことができました。昼食は退院後間もない諏訪司教様をお迎えし、ご一緒にお弁当をいただく喜びのひとときでした。

午後は桜町教会聖堂へと移動し、諏訪司教様のご挨拶があり、その中でダイナミックメモリーの説明、また四国の教会における青少年司牧でダブルの子どもたちにとって教会はどうあるべきかを考えなければならない時期に来ていると訴えられたことは、とても切実な問題として受け止めました。

続いて修道女連盟年次総会があり、その後、村上康助神父様司式のミサで感謝のうちに各自の奉献を新たにし、高松教区民と共に神の国のために生きる者であることを自覚した一日でした。

北条　sr神林直子

召命黙想会のご案内
聖ドミニコ宣教修道女会
テーマ：神様との絆を求めて
日時　11月23日（金）PM2:00から25日（日）朝まで
場所　聖ドミニコ宣教修道女会本部　ロザリオ修道院
参加費　3000円（〒664-0892　兵庫県伊丹市高台5-28）
対象　高校生から35歳までの独身女性
申込み　シスター小島　■(072)782-2548　F(072)784-7615

聖ドミニコ宣教修道女会

平和への祈り

戦争の傷と領土問題を抱える世情にあって、８月に松山教会で行われた教区人権委員会が主催する「平和を祈るミサ」と松山教会主催による「平和を語りつぐ会」を特集した。

松山教会で諏訪司教司式　「平和を祈るミサ」
平和は　ほほえみから　始まる

高松教区では、毎年平和旬間中に「平和を祈るミサ」が、人権を考える委員会主催で行われている。これまでは司教座聖堂の桜町教会で行われていたが、今年から司教様が各教会へ出向いてくださることになった。

その「平和を祈るミサ」が、８月12日松山教会に於いて、諏訪榮治郎司教様の司式によって執り行われた。

ミサは、ヨハネ・パウロ２世の広島での平和アピールの祈りに始まった。共同祈願では「平和は微笑みから始まります。」というマザーテレサの平和の祈りを全員で祈った。

司教様のお説教は、アポロ宇宙船飛行士の体験からであった。

宇宙から見た時、私たちが生きている青い星、地球は神秘的で神々しかった。その美しさに感動したアポロ宇宙船飛行士。しかし、彼はこの平和に見える地球のどこかで戦争やいがみ合いが起こっていることも事実なのだと思った。このギャップに彼と同様私達の気持ちも沈んでしまいそうになるが、このような美しい地球の平和を守って行くのは他でもない私たちの責任なのである。

私たちが無関心でいる時、平和は遠くにある。普段から平和について考え、関心を持つことが大切ではないか。

平和を築いていくためには、考えや文化の違いなどで対立するのではなく、お互いが違いを認め合い受け入れあってともに生きることへの努力が、地球人である私たちに求められていることを心に刻みたい。

教会学校など未来を担ってくれる子供たちが、平和への想いやイメージを描いてミサの中で奉納した絵、「ＬＯＶＥ　ＡＮＤ　ＰＥＡＣＥ」は、私たちが愛と平和を求める先に、明るい希望があることを感じさせてくれた。

今年も一人ひとりが平和について考え、祈るきっかけとなったことに感謝している。

松山教会　尾崎寿一

子供達の平和への思いを掲げて

若者たちに平和の学びを
戦争を語りつぐ会　松山教会

第２次世界大戦の終結から67年が経ち、今日の平和な日本では、かつての戦争の姿を知ることなく育った若い世代が増えて来ました。そんな彼らの目に当時の日本はどう映るのでしょうか。数年前、松山教会の社会活動委員会が企画して、広島の平和行事に参加し被爆された方の証言を聞きました。

熱心に聴き入る人たち

原爆投下直後の悲惨な状況はもとより、被爆された方々の苦しみは私たちの想像をはるかに超えていました。証言者は戦争のむごさを伝えて行くことが、被爆した自分の使命だと思われているようでした。その証言を聞いて私たちは、戦争は絶対にしてはならないと思い、戦争のない平和な社会がいかに大切かということを痛感しました。

松山には原爆の投下はありませんでしが、空襲によって多くの命が奪われ、街中焼野原になりました。松山教会にも戦争を体験した人は多く、証言の機会を作れば語ってくれる方々がおられます。

人の命を奪う戦争を目の当たりにしてきた人々の貴重な証言を現代の若者たちに伝えることは、これからの平和の大切さを学ぶ原点になると考え、平和な生活を当たり前のように考えている若者たちに、社会活動委員会のメンバーは、平和は学び、努力して得るのもだということを伝えたく、４年前、第１回目の「戦争を語りつぐ会」を開催しました。今年、第２回目を８月26日に松山教会において開催し、４名の語り部が戦火の記憶を語ってくれました。毎回ともに参加者が多く、この会を継続していくことの大切さを実感しています。更に来年には第３回目の開催を予定しています。

分かり易く語る藤原氏

今回の１人目の語り部の話は、大戦当時の時代背景や松山大空襲の情報を中心としたものでした。

日本の敗戦が色濃くなった１９４５年７月26日夜半、米軍による松山への空襲が敢行されました。１００機を超えるＢ29爆撃機の攻撃により、市街中心部は一夜にして焦土と化しました。この戦災により２５８名の方々が亡くなられています。市内から外れた高台に住んでいた彼は難を逃れましたが、天まで赤く燃え上がる中で爆撃機が空襲を繰り返す様は忘れられないと言います。

２人目の方は、小学６年生の頃、実際に雨のように降り注ぐ焼夷弾の中を逃げ延びた体験について語られました。

平和を訴える大西氏と佐藤氏

食料を調達してくれたこと、そのさ中に米軍の機銃掃射を受けつつも間一髪危機を逃れた体験について、４人目の方は、勝利の見込みすらないままに戦争を続けていた当時の日本の愚かさについて話をされました。

この話を聞いた若者たちの感想を紹介します。

松山でも空襲あった

僕は広島の出身なので原爆体験や戦争体験のお話を聴く機会が多くありました。どのお話を聴いても、それぞれの方の実体験が違っても、皆さんが一様に戦争を繰り返してはいけないと言われるのが、印象的でした。松山で戦争体験のお話を聴くのは初めてでしたが、松山でも空襲があったのは驚きでした。日本全土で戦争が行われていたのですね。

吉本昴平（大学生）

戦争は恐ろしいこと

私はドラマやドキュメントなどで戦争のことは知ってはいましたが敵も味方も一般人も兵隊もみんな死んでしまう、そんな恐ろしい戦争がこの松山でも起こっていたと、実際に身近に体験を聴いたのは初めてで、とても心に残りました。

私達戦争を感じたことのない若者が、こういった会で、色々なことを知っていくことは大切なことだと思います。世界中の戦争、紛争の全てがなくなる日が訪れることを願っています。

白方斎来（高校生）

会場の人々は真剣にそれぞれの話に聴き入っていました。特に同世代の人達は、戦争の記憶を思い出として聞くだけでなく、語り部たちが当時抱いた悲しみや憤り、痛みや苦しみさえも追体験しているかのようでした。

戦争の記憶が時と共に薄れる中で、今、このような取り組みこそが重視されるべきでしょう。折しも、日本と近隣諸国の関係が緊張の度合いを増している中、日本国民の国際平和の維持に対する責任には重大です。あなたはどのように思われるでしょうか、未来は若者の手に委ねられています。

火災と爆撃を避けて姉と２人きりで川に辿り着いた時、一緒に逃げようと手を引いてくれた男性が、次の瞬間には頭部に焼夷弾を受け亡くなっていた事などを、涙ながらに話されていました。当時まだ受洗していなかった彼女は、極限状態の連続の中、神様の助けを願い求めたそうです。

３人目の方は、お母さんが大切な着物と交換に

市民の関心高いテーマ
日本消化器病学会市民公開講座を開催
＝ホスピス・緩和ケアとは＝

９月下旬のある朝、新聞の天気予報の欄に目をやると、日本の南海上に台風マークがあるではないか。いやな予感が的中し、平成24年９月30日、台風は四国に最接近したが幸いにも、公共交通機関にも大きな乱れはなく、市民公開講座の開催は可能と判断した。マルチン病院からのスタッフ13人が開場12時30分、開演13時に遅れないよう、あくせくと準備に奔走し、12時前には何とか格好をつけることができた。

12時を過ぎた頃からパラパラとスタッフ以外の方々の姿がロビーに見受けられるようになった。そして、12時20分頃には次々と波のように人々が押し寄せ、スタッフは受付業務に奔走しつつも安堵の表情を浮かべていた。と同時に台風の真っただ中何故？という疑問が私の頭をかすめる。

今回のテーマは“ホスピス・緩和ケアとは”と題したが、これに対する市民の関心の高さをうかがい知ることができたと素直に喜ぶことにした。

今回２人の先生に講師をお願いし、私自身にとっても、大変興味深い演題名で講演していただけることになり、拝聴できるのを楽しみにしていた。しかし、世話人という立場もあり、会場を走り回り、残念ながら話の端々しか聞き取ることができなかった。

聖マルチン病院
副院長　中津　敏明

家族と最期を迎えたい

第一部の三豊総合病院ホスピス長・院長の白川和豊先生には「消化器癌の患者さんを支える・三豊総合病院緩和ケア病棟での経験から」と題して御講演をいただいた。

その中で、亡くなった方の御家族が私もここで最期を迎えたいというようなホスピスを目指すと言われたのが大変印象に残っている。実に理解しやすく、明日からでも実践できることであり、改めてそのことを肝に銘じた次第である。

本講演の司会は当院院長の見市昇先生にお願いしたが、同じ消化器外科医同士のせいか、講演の要所要所で頷く見市先生と白川先生には、がん診療において相通ずるものがあるのだと感じた。

あと何日生きられる？

第二部の講演は小平クリニック院長の山崎章郎先生にお願いした。多くの著書を執筆されており、ご存知の方もたくさんいらっしゃると思われる。

先生の講演の中で、印象に残ったのは、数日後には天国に召されるであろう末期がんの患者さんから“あと何日、生きられますか？”と質問されたときにどう対応するか、という内容である。

がん診療に携わっている医師なら一度や二度は同様の経験を持っており、私も２人の患者さんから同様のことを尋ねられたことを鮮明に記憶している。そこまで迫った自分の死を予兆している人が、私にこれだけ心を開いてくれているのに、“そんなことを言わず気長に頑張ろう”との私の返答はあまりにもそっけなかったように思う。あと数日の命だととても告げられないにしても、それに近い意味のことを言うのが死を間近にした人に対して敬意を表するのであれば、臨終に携わる医師としてはもう少し考えねばなるまい。

私のような宗教家でもない若輩者が人生の大先輩に対して“これまでの人生はいかがでしたか？”と尋ねるのもおこがましいような気もするし、“そろそろ天国に行く準備をしましょう”というのもどうかと思う。結局、正しい答えなどないと自分に言い聞かせ納得してしまう始末である。

講演が終了し、質疑応答で司会の香川大学医学部名誉教授の西岡幹夫先生が、この点についてどう返答するのがベストかと鋭い質問をされた。残念ながら、この時、私の頭は閉会のあいさつで何をしゃべろうかとそのことでいっぱいであり、２人の先生の熱いやりとりは左から右に抜けていた。

以上、本市民公開講座に対する感想を医師として述べたが、今回の本当の主役は市民の方々である。

日頃、あまり触れることのない話題に少しでも興味を持っていただけたなら、本会の開催の意義は大きい。嬉しいことに、早くも同様のテーマでぜひ２回目の講演会を開催してほしいとの声も寄せられ、世話人としては聴衆者側の感想をぜひ聞きたく、次の講演会、更には明日への医療につなげたいと思う次第である。

医療のともしび（35）

マリアさまとともに52年

私は、1959年7月21日香川県坂出市で眼科を開院いたしました。開院2か月前の聖霊降臨の祝日に、家族揃って洗礼の恵みを戴き、さらに聖母マリア様の御保護を願い、院名を眼科聖母医院とさせて頂きました。

開院以来50有余年、神様とマリア様に守られ導かれ、4人の子供に恵まれ、2人は眼科医になりました。私が引退した後は、長男が聖母眼科を継承しております。

地域の人に“最善の医療を最適の環境で”をテーマに、「神様よりの賜」に磨きをかけることに日々努力し、さらに謙虚であるように、自分の能力を過信しないこと、そして神様を信じ励んでおります。

神様が創られた美しい世界が見えるのも、巡り合う人々の優しい笑顔が見えるのも、戴いた目が健康だからです。情報の80％は目から入ってくると言われています。白内障、緑内障、網膜剥離、加齢性黄斑変性症、糖尿病性網膜症等々、治療が遅れると失明する事もあります。異常を感じた場合は早く受診を。また高血圧症、糖尿病の方は自覚症状がなくても定期検診を受けられることをお奨めします。

５年前から、毎月第２、第４金曜日に自宅で聖書の勉強会を始めました。新約聖書を２章ずつ声を出して共同読書し、自分の照らされたこと、感じたこと、疑問点を率直に表し意見交換をしています。神父様やシスターも参加くださり導いて頂いています。機会があれば、皆様のご参加をお待ちしております。

今年、私は90才になりました。90年前に命を授かり今ここに生かされていることは私への賜です。しっかりと胸に刻み、お側に呼んで下さる日まで御摂理のままにと、お祈りをしております。

高松教区の皆様の上に神様のお恵みが豊かにありますようにお祈り申し上げます。小さな私の為にもお祈りください。

カトリック坂出教会　モニカ　永原美智子

教区スケジュール

11月
- 1日(木)　諸聖人（祝）
- 2日(金)　死者の日
- 3日(土)　文化の日
- 4日(日)　年間第31主日「教区民の集い」（香川地区）
- 7日(水)　司祭評議会 12:00
- 10日(土)　聖レオ１世教皇教会博士(記)
- 11日(日)　年間第32主日　「教区民の集い」（徳島地区）
- 18日(日)　年間第33主日 聖書週間（～25日）青年の集い in高知（17～18）
- 21日(水)　聖マリアの奉献（記）
- 22日(木)　聖セシリア乙女殉教者
- 24日(土)　宣教司牧評議会役員会 13:00
- 25日(日)　王であるキリスト
- 30日(金)　聖アンデレ使徒（記）

12月
- 2日(日)　待降節第1主日　宣教地司祭育成の日（献金）
- 3日(月)　聖フランシスコ・ザビエル司祭（祝）一粒会ミサ・会議 10:00
- 5日(水)　司祭評議会 12:00　（溝部脩司教霊名日）
- 8日(土)　無原罪の聖マリア（祭）
- 9日(日)　待降節第2主日
- 13日(木)　聖ルチアおとめ(記)
- 16日(日)　待降節第3主日
- 23日(日)　待降節第4主日
- 25日(火)　主の降誕（祭）
- 26日(水)　聖ステファノ殉教者（祝）
- 27日(木)　聖ヨハネ使徒福音記者（祝）　諏訪榮治郎司教霊名日
- 28日(金)　幼子殉教者(祝)
- 30日(日)　聖家族の祝日

私たちは小さな教会
ME四国コミュニティー

去る9月29日（土）～30日（日）と、2日間に亘っての、スケジュールをME（マリッジ・エン・カウンター）特有の心温まるひと時として、無事に終えることが出来ました。

この集いへのご理解とご協力に、諏訪司教様をはじめ各小教区、関西、関東からの6組のカップルが参加をして頂きました事等々、心からお礼申しあげます。

今回の集いは、来年2泊3日のWE（MEウィークエンド）を四国コミュニティーが主催するに当たり下準備として行いましたが、初参加者の方々からは感触として、好感の言葉を頂きました。

信仰年に入りましたが、司教様が仰った「私たちは小さな教会」を、今改めてMEのモットーとして確認し励んで参ります。

ME四国COM

被災者の横にいて寄り添うということ

１週間のボランティア活動を計画し、9月14日大船渡に向かった。大船渡ベース「地ノ森いこいの家」には15日に到着した。途中バスの中から目にした絶望的な陸前高田の光景に比べると地ノ森周辺の復旧作業は想像していたよりは進んでいて、仮設住宅や仮設店舗が十分に納得出来るものではなかったが、一応完成されていた。

取り敢えず被災者の生活は保障されているかにみえたが、閉塞された仮設住宅の中でどのような日々を過ごされているのか。コミュニティーは生きているのか。決して消しさることの出来ない記憶が心に深く刻まれている人々と、どのように向き合えば良いのか。松山を発つ時から持ち続けていた志は少しずつ不安に変わっていった。

人はどうしてこんなにも優しくなれるのだろうか。あの日から1年半経った今もコミュニティーはしっかりと生きていた。

人々はその中で互いに支え合い、思い合って日溜りを作っている。日々入れ替わる新しい顔を「ベースの人」と呼んで出会う人の誰もが親しい友人を迎えるように受け入れてくれる。「ボランティアとして何かしなければ」などと力まなくても良いのだ。ただ此処に、被災者の横に立てば良い。共同体の一人として共に汗を流し、共に遊び、共に食べて、時を共有する。年齢も性別も関係なく肩書きもいらない。神に造られた者としてただ神の手足となるだけ。

復興までには、まだまだ時間がかかり遠くて先が見えない。仮設住宅に住む被災者の生活もこの先を決して約束されたものではない。今日を只ひたすらに生きている被災者に揺らぎ無い安心をもたらすために私達はどのように祈れば良いのか。あの絶望の時に一歩を踏み出した勇気が着実に希望へと向かわせている。そう信じて帰路に着いた。

そして今、何となくこの言葉を反芻している。

「信仰とは現実に共感すること。不条理に感受性を持ち、不条理に抵抗すること。（大船渡教会・森田神父様の説教より）」

松山教会　越智のぶ代

ＴＳＣ便り

大船渡ベースのつぶやき

１０月中旬から、ボランティアさんが激減します・・・。
特に男性がいない日も・・・。

寄り添い談笑するボランティア

お米券引き続きキャンペーン中！

お米券の場合教区事務局へ直接郵送されるか持ち込んでください。
現金の場合下記へ振り込み願います。

郵便振り込み：カトリック高松司教区
０１６５０－７－１３２０８

東かがわ霊性センター（仮称：かぜの丘）開設のお知らせ

高松教区立国際神学校（レデンプトーリス　マーテル）が閉校となり、2年余の管理を経て、「東かがわ霊性センター（かぜの丘）」として新たに開設いたしました。

瀬戸内海に面した三本松の地、みどりの豊かな丘にあり、心身共にさわやかな一時をおすごしいただけるのではないかと、皆さまにご利用いただきたくご案内申しあげます。

青少年活動、教会学校キャンプ　、ボーイ（カブ）スカウト、青年たちの集会　また地区活動など、グループ活動の場として、さらにグループ黙想会、研修、養成コースなど霊的な集いなどに広くお使いいただけると思います。近くには三本松の海水浴場や平家ゆかりの登山道などもあり、また近接する「とらまる公園」では大きな体育館や、各種スポーツ施設、プール　人形劇場なども充実しています。

ただ、十分整った施設というのではございませんので、できるかぎりグループの自主性とアイディア、そして奉仕の精神のもとでお使いいただけたら幸いです。

申し込み、問い合わせなど詳細は高松司教館事務局にご連絡下さい。
〒076-0074高松市桜町 1-8-9　TEL 087-831-6659　Fax 087-833-1484

新　刊　書　籍

■クリスマスのうたものがたり

『きよしこのよる』はどうしてうまれたの？

クリスマスイブの朝、教会のオルガンが鳴りません。「ミサのうたはどうしよう」頭を抱える神父さまに神さまのメッセージが舞い降りて…。1818年オーストリアの小さな村の教会で生まれた「きよしこのよる」誕生物語。

文　中井俊已（なかい・としみ）長崎大学卒業後、私立小・中学校に23 年間勤務。現在作家・教育コンサルタント。著書に『元気が出る魔法の口ぐせ』『マザー・テレサ 愛の花束』『永井隆 平和を祈り愛に生きた医師』『平和の使徒 ヨハネ・パウロ二世』など多数。

絵　永井泰子（ながい・やすこ）武蔵野美術短期大学、セツ・モードセミナー卒。著作に『アミちゃんの手芸ランド』全5 巻等

上製　23頁定価987円（本体940円＋税）

■傷つけられた世界を癒すために
～3･11後に日本で環境・原発問題について考える～

「3･11」以後の世界へ－カトリック信仰からの展望。

「信仰と奉仕」と「正義の促進」は、「創造との和解」に結ばれてこそ達成される。

イエズス会社会司牧センター　編
A5判　並製 257ページ　教友社
定価：1,365円（本体1,300円+税）

告　知　板

高松教区 青年の集い
－遠くにいる隣人－

期日：2012年11月17日（土）～18日（日）
場所：カトリック中島町教会
〒780-0862 高知市鷹匠町2-1-33
TEL（088）872-3658
対象：18歳（高校生は除く）～35歳
参加費：一般3,000円、大学生2,000円

編集後記

今10月11日から信仰年が開始されたが、それに先立ち「新しい福音宣教」をテーマにシノドス（世界代表司教会議）も開幕している。「教会は福音宣教するために存在しています」という教皇様の言葉は信仰年を自らの信仰を固め、新しい福音宣教へと向かわせるための私たちへの問題提起であり、信仰による教会一致への励ましでもあるようだ。

（J）

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.idm-hcg.co.jp/sakamoto/